

聖書日課 『からし種』 2022.7.3-7.10

<p>7月3日 (日)</p> <p>黙示録 1章</p>	<p>「恐れるな。わたしは最初の者にして最後の者、また生きて いる者である。一度は死んだが、見よ、世々限りなく生きて、 死と陰府(よみ)の鍵を持っている」(17-18節)。私たち人間 にとって死は棘(とげ)であり、私たちの心を支配する大きな力 である。しかし死を打ち破り、その暗闇の支配から私たちを救 い出された方が今日も生きて働き、私たちを礼拝に招かれる</p>
<p>4日 (月)</p> <p>黙示録 2章</p>	<p>「しかし、あなたに言うべきことがある。あなたは初めのころ の愛から離れてしまった。だから、どこから落ちたかを思い 出し、悔い改めて初めのころの行いに立ち戻れ」(4-5節)。 私たちに刻まれているはずの主の深い愛。なのに私たちはそ の愛に背を向け、見栄えよく心地良さそうな物、楽な方向に 流されていく。もう一度「初めの主の愛」に立ち戻られて。</p>
<p>5日 (火)</p> <p>黙示録 3章</p>	<p>「あなたは、『わたしは金持ちだ。満ち足りている。何一つ必 要なものはない』と言っているが、自分が惨めな者、哀れな 者…裸の者であることが分かっていない」(17節)。「見よ、 わたしは戸口に立って、たたいている」(20節)という有名な 聖句の直前の言葉。主が戸を叩きながら祈っているのは「自 分の貧しい姿に気づけない私たち」であることを覚えたい。</p>
<p>6日 (水)</p> <p>黙示録 4章</p>	<p>「彼らは、昼も夜も絶え間なく言い続けた。『聖なるかな、聖 なるかな、聖なるかな、全能者である神、主、かつておられ、 今おられ、やがて来られる方』」(8節)。「天上の礼拝」では絶 え間なく神に賛美がささげられている。わたしがつぶやく時 も、神に背を向けている時も、間違った方向に頭を下げてい る時も。今日その「天上の賛美」を聴く者とされていきたい。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2022.7.3-7.10

<p>7日 (木)</p> <p>黙示録 5章</p>	<p>「(小羊の前にひれ伏した)彼らは新しい歌をうたった」(9節)。私たちが正義と愛をもって正しく裁くことができるのはただ一人、「屠られた小羊」であるイエス・キリストのみ。そして私たちはこの方を通して、あらゆる種族、言葉の違う民、民族や国民が一つとされて歌うことのできる「新しい歌」を与えられていく。この「天上の賛美」に連なる信仰をいただいでいこう。</p>
<p>8日 (金)</p> <p>黙示録 6章</p>	<p>「また、見ていると、小羊が第六の封印を開いた。そのとき、大地震が起きて…天の星は地上に落ちた」(12-13節)。黙示録は「神と小羊の怒りの大いなる日」(17節)を描く。読むのが苦しくなる描写の数々に心が痛む。どうしてそこまで神が怒らなければならないのか。それは今、地上に響いている「正しい人たちの叫び」(10節)のゆえであると黙示録は語る。</p>
<p>9日 (土)</p> <p>黙示録 7章</p>	<p>「玉座の中央におられる小羊が彼ら(大きな苦難を通過してきた者たち)の牧者となり、命の水の泉へ導き、神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれるからである」(17節)。黙示録が描く「天上の礼拝」は、私たちが神の愛の支配に向けさせる。神の小羊である主イエスが、誰の涙をぬぐい、慰め、賛美を与えられるのか。真の牧者である神の小羊に従う者とされて。</p>
<p>10日 (日)</p> <p>黙示録 8章</p>	<p>「小羊が第七の封印を開いた時、天は半時間ほど沈黙に包まれた。そして、わたしは七人の天使が神の御前に立っているのをみた。彼らには 7 つのラッパが与えられた」(1-2節)。天使のラッパの音は、さまざまな出来事を思い起こさせる。私たちの生活の中にも、神の業を思い起こすような出来事が溢れているのだろう。</p>